



WASEDA ROPE

平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業
推進校実践報告書

- 1 学校名：熊本県立鹿本高等学校
- 2 実施日時：2017（平成 29）年 2 月 22 日（水）
- 3 対象：全校生徒（472 名）
- 4 派遣パラリンピアン：副島正純さん（車椅子マラソン：アテネパラリンピック出場）
- 5 授業内容：講演・実技

2017（平成 29）年 2 月 22 日（水）に熊本県立鹿本高等学校にて、車椅子マラソンでアテネパラリンピックに出場された副島正純さんが、全校生徒 472 名を対象にご講演されました。

副島さんは、23 歳のときに仕事中の事故で脊椎を損傷し、車椅子での生活となりました。怪我をした直後は、この先何を目指してどうやって生きていこうかと、毎日思い悩み苦しむ日々が続いたそうです。そんなとき、いつも家族が「絶対に大丈夫だから諦めないで」と支え続けてくれたおかげで、少しずつ現状を受け入れ、ここから新しい世界を見つけようと前向きになれたと話していただきました。

新しい人生のスタートとして車椅子マラソンを始めましたが、仕事と練習の両立が非常に困難で、金銭的にも時間的にもハードな日々を送りました。そのような厳しい環境下でも、自分の好きなことを続けたいという強い思いと、自分で何とか生計を立てて暮らしていかななくてはならないという思いで、どんなに苦しくても車椅子マラソンでパラリンピックに出場するという夢を追い続けました。副島さんが車椅子マラソンを始めたころは、まだ世間ではパラスポーツが浸透しておらず、なかなか理解を示してもらえなかったそうです。そこで、自分が日本代表になって活躍し、世間の人々にもっとパラスポーツの存在を知ってほしい、そしてサポートしてもらえよう環境をつくっていききたいという新しい目標も持つようになったそうです。

そして並々ならぬ努力のおかげでアテネパラリンピックに出場したり、海外のレースで優勝したことで、メディアにもその活躍が取り上げられパラスポーツや障害者について世間の人々に知ってもらう機会を作れたことが、すごく嬉しかったと話していただきました。車椅子マラソンを始めたことで、自分自身に自信が持てるようになり、また、副島さんの活躍を見た子どもたちから応援を受け取ることも増え、自分の存在意義もできました。障害者でも、どのような人でも、誰かに何かを伝えることができるのだというお言葉は、多くの生徒たちの心に深く刻み込まれたようでした。パラリンピックという枠組みを超え、共生社会をいかに実現するかというメッセージをいただいたご講演でした。

6 授業の様子



講演の様子



初めてレース用の車椅子を見た生徒が多く、皆興味津々の様子で話を聞いていました。



質疑応答の様子



花束贈呈



記念撮影